

私たちの会のアンケートに 30 人中 23 人の候補予定者が回答せず 議会だよりに賛否もなし、議員の議会報告もない、 朝霞市民は何を基準に市議会に代表を送り出せばいいのか

12 月 2 日に投票日が予定されている朝霞市議会議員選挙ですが、市民には全くと言ってよいほど情報が入ってきません。どのような候補者がいるのか、それぞれの候補者がどのような主張を掲げているのか、全くわかりません。

議会報告が判断材料にならず 当会がアンケートを実施

普通の自治体の議会だよりでは、議員名や政党名の入った質問要旨や、議案への賛否が報告されています。しかし広報あさかの議会だよりは、議案にどの政党や議員が賛成したのか、反対したのか、報告されていません。

独自に議会報告を作成して、地域住民に配っている議員も、政党の議員以外はわずかしきありません。

今度の選挙に出る候補者がどのような考えをもっているのかわかりにくいので、今後の朝霞市を考える会では、市議会議員候補予定者 30 人全員に、市民に関心の高い政策テーマ①情報公開と市民参加、②議会改革、③福祉のまちづくり、④基地跡地利用、⑤ベッドタウン朝霞のまちづくりについてアンケート

を実施しました。

残念なことに、回答したのは、共産党 3 人、市民ネット 2 人、無所属新人の 2 人にとどまり、他の 23 人の候補予定者は全員回答をしませんでした。富岡市長与党の無所属(進政会、拓政会、民主クラブ)と公明党、民主党の現職議員の候補者予定者 16 人全員は回答をしていません。

市民に公約を問わない 市議選が街を滅ぼす

他の団体が行っているアンケートなどでも 23 人はそろって回答しておりません。公職の候補予定者としての説明責任が問われると思います。普通の自治体の選挙であれば、さまざまな団体のアンケートに回答するのは常識です。

とくに朝霞市は基地跡地の利用や、高齢社会に備えた福祉、学校の建て替えなどさまざまな議論のある課題があります。今回は、十分な情報をもとに

回答	(共産党)堀内初江、斎藤弘道、石川啓子 (市民ネット)藤井由美子、田辺淳 (無所属・新人)小山香、伊藤隼人
回答せず	(無所属・進政会)陶山憲秀、石原茂、浅川万次郎、野本一幸、高橋安喜夫、福川鷹子、小池秀雄、大橋正好、(無所属・拓政会)獅子倉千代子、原山典、(無所属・民主クラブ)小池正訓、(無所属・新人)高橋勅幸、須田義博、田口勇、栗原幸雄、神谷大輔、船本祐志 (公明党)利根川仁志、浦川和子、岡崎和広、篠原逸子、本山好子 (民主党)佐野昌夫

議員を選ばなくてはならないはずです。

朝霞市議会議員になろうとしている人たちの多くが有権者をどのように見ているのか、改めて考えさせられる結果でした。

アンケート結果要約は 裏面に掲載。

全回答は

<http://blog.livedoor.jp/korekaraasaka/archives/51154963.html>

地域や自治体を考えている人を招いて 開かれた市議会と未来の朝霞市を問う

シンポジウム「朝霞市の未来は安泰か」を開きました



11 月 18 日、私たちの会ではシンポジウムを開き、市議選の課題の①市民参加と議会改革、②福祉のまちづくり、③基地跡地利用を、市の内外の講師をお呼びして議論しました。

朝霞市の議会は改革度ゼロ点

第 1 部では、この春の統一地方選挙で①議員どうしが自由に討議する議会か、②市民を議論に参加させているか、③情報公開は十分か、ということ全国 1800 自治体の議会で調査した自治体議会改革フォーラムの高井章博さんから、調査結果

から見えてくる自治体議会の問題点を話していただきました。ちなみに朝霞市の採点結果はゼロ点ということでした。

和光市では議会改革が始まる

続いて、和光市議会が今年から 2 年間取り組む議会改革について、同市議の松本武洋さんが紹介しました。すでに和光市では、全議員の質問の要約と会派(議会の中の党派)別の賛否が年 4 回の議会の終了後公開されています。「(朝霞市が議員の賛否を)公開しないで住民が議員や市政をどのようにしてチェックできるのですか」

と驚かれていました。

基地跡地利用・福祉の 分かれ目はこれから

第 2 部の福祉のまちづくり、第 3 部では基地跡地利用について議論しました。福祉をわかる議員が必要なこと、斡旋ではない福祉への関わり方を期待されました。基地跡地の国家公務員宿舎建設問題は、市の勝手な計画に市議会が無力な問題と、市がメリットと宣伝する地元見返り施設に膨大な市の自己負担が隠されており、大きな将来負担になることが紹介されました。

今後の朝霞市を考える会のアンケート結果

回答者 堀内初江、斎藤弘道、石川啓子(以上共産党)、藤井由美子、田辺淳(以上市民ネット)、小山香、伊藤隼人(以上無所属)
今後の朝霞市を考える会実施 11/6 発送、11/14 回答締切、11/19 着分まで反映

I 情報公開と市民参加 回答者は全員前向き

審議会・委員会の市民参加の拡大については、回答者全員もつと枠を広げるべきと回答しています。むらのある審議会・委員会の議事録の公開時期も時限を設けて公開すべきと全員が回答しています。パブリックコメントの重要性も全員が認めています。

回答が分かれたものは、審議会・委員会の市職員の発言の公開で、発言内容の公開は全員が賛成していますが、発言者名を個人名にするか職名にするか「事務局」とするかは分かれませんでした。また情報公開の手数料負担も、原則無料とする共産党と、営利企業以外は無料とする市民ネット、現状のままよいとする無所属の2人で分かれませんでした。

アンケートにきちんと回答する議員のため、全体的に前向きな回答でした。

II 議会のあり方 具体策で回答が分かれる

議会改革の課題

議会改革については、傍聴の規制の緩和、広報あさかでの議員の賛否の公開、発言議員名の公開、重要議案の審議で市民の意見陳述の機会を設けることについては回答者7人の全員が前向きでした。議会改革については右表のとおりになっています。

自治体議会改革フォーラムの提起に比べると、制度より議会の姿勢を正すことを重視しているようです。

休日夜間の議会開催	堀内・斎藤・石川・田辺・小山
市民参考人の意見表明の場	堀内・藤井・伊藤
議会の権限強化	斎藤・田辺・小山
議員どうしの討論	藤井・伊藤
迅速な議事録公開	堀内・石川
政務調査費の公開	石川・藤井

1人の回答は省略

III 福祉のまちづくり 負担問題で回答が分かれる

少しの負担増を覚悟しても安心の福祉をめざすか、そうでないかという問いに、共産党は負担増をせずに安心の福祉と回答、他の4人は少しの負担増でも安心の福祉をめざすと回答。介護保険の改革でも、負担を抑制してサービスを整備するというのを共産党の3人が答える一方で、他の4人は社会保険料によるやり方から税方式に変えるべきと回答。福祉に対するスタンスの違いが明らかになっています。

保育所の開所時間をめぐっては、現状どおり19時まででよいとする田辺、市の計画どおり20時までで延長とする石川、斎藤、小山、伊藤。保護者の就労が厳しくなっているため20時以降も検討すべきが堀内、藤井が回答しています。政党内ではばらつきがあるので、個々の体験があるのでしょうか。

医療の課題は右記のとおりです。全員が、開業医の協力を得て往診や地域医療の充実をすべき、と回答しています。市と医師会の協働が課題になります。

小児医療窓口無料化の評価については、小山が軽度の患者が増えて重い患者に影響が出ている、藤井が評価するものの医師に負荷がかかっている問題を解決すべき、と回答しています。

医療について

開業医の協力で往診や地域医療の充実	7人の全回答者
都内の大学病院との連携	藤井・田辺・斎藤・伊藤
参加・小児科の充実	堀内・斎藤・石川・藤井
新たな救急病院の新設	堀内・田辺・小山
朝霞台中央病院の強化	小山・伊藤

IV 基地跡地利用 回答者は市役所に厳しいスタンス

回答者全員が基地跡地に国家公務員宿舎建設に反対するスタンスなので、市役所の説明不足、計画の質について問題視する回答でした。基地跡地利用で重視するものとしては右記のとおりです。

公務員宿舎の評価については回答者で分かれ、公務員宿舎は財政難だからつくるべきでないとする田辺、夜勤や転勤の多い職員に限定すべきという藤井、小山、伊藤と、公務員宿舎そのものには必ずしも反対せず民間人の住宅も安価であるべきとする共産党とで回答が分かれています。

基地跡地利用で重視することは

情報公開	7人の全回答者
市民合意	堀内・斎藤・石川・藤井・田辺・小山
自然保護	堀内・斎藤・石川・小山
市の財政	田辺・伊藤

1人の回答は省略

V ベッドタウン朝霞のまちづくり 生活体験が反映

マンションの課題

都市計画との整合性	7人の全回答者
管理組合へのノウハウ支援	堀内・斎藤・石川 小山・伊藤

2人以下の回答は省略

この部分の回答は政党や性別にかかわらず多様な回答になっていて興味深いものがあります。生活体験や世代が色濃く反映されています。武蔵野線についても聞きましたが、さいたま市方面への接続の改良を求めるのが共産党の3人と、藤井・小山の5人でした。市内の消費向上は商店街の育成、啓発が上位です。

東上線の課題

バリアフリーの充実	斎藤・石川・藤井・伊藤
有楽町線直通の増発	石川・藤井・小山
有楽町線経由と東上線経由の運賃共通化	堀内・藤井・小山

2人以下の回答は省略